

第4次食育推進基本計画 重点事項 持続可能な食を支える食育の推進 に関する取組

委員名：久保 町子

所属団体：JA全国女性組織協議会

取組名：「栽培から食べるまで」の食育活動

○取組内容：※長野県 J Aみなみ信州女性部喬木支部フレッシュミズグループSpica（スピカ）（喬木村）
「自分たちが作った小麦でパンを食べたい」と、フレッシュミズ（若世代の女性たち）グループが2013年から遊休農地を活用した麦づくりを始め、2年目からは収穫した小麦を使ったピザづくりを開始。同じ地区の小学6年生とも小麦を通じた交流をはじめ、調理実習での食育活動から、遊休農地を活用して“栽培から食べるまで”一貫した食育活動へと発展。
2023年で10年目の活動となる。



○関連する目標：

- ①食育に関心を持っている国民の割合 ②朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数
- ③地域等で共食したいと思う人が共食する割合
- ④食育の推進に関わるボランティア団体等において活動している国民の数
- ⑤農林漁業体験を経験した国民（世帯）の割合 ⑥産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ国民の割合
- ⑦環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ国民の割合 ⑧食品ロス削減のために何らかの行動をしている国民の割合

取組名：JAと女性部で連携した食育活動

○取組内容：※長野県JA信州うえだ女性部（上田市）

「栽培から食べるまで」の食育活動として、地元小学校の児童が地域の特産物を学ぶため、「大豆」の栽培から加工までの体験教室をJAと女性部が協力して実現。

栽培指導はJAの営農技術員が担当し、収穫した大豆を使った「豆腐作り」指導は女性部が担当。豆腐作りでは、しぼりたての豆乳の試飲や、おからを使ってお団子作りなども行う。



○関連する目標：

- ①食育に関心を持っている国民の割合
- ②食育の推進に関わるボランティア団体等において活動している国民の数
- ③農林漁業体験を経験した国民（世帯）の割合
- ④環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ国民の割合
- ⑤地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている国民の割合
- ⑥栄養教諭による地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数
- ⑦産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ国民の割合

取組名：食品全般に関する知識を養う食育活動

○取組内容：※長野県JA佐久浅間女性会（佐久市）
出前講座として小・中学校へ出向き、農業・農産物についてだけでなく、遺伝子組み換え食品や食品添加物、食品表示の見方の学習、実際の調理の仕方など、食に関する幅広い知識を得ることで、子どもたち自らが判断できる「生きる力」を育むための取り組み。



○関連する目標：

- ①食育に関心を持っている国民の割合
- ⑱産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ国民の割合
- ⑲環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ国民の割合
- ㉓食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する国民の割合

取組名：学校給食を通じた食育

○取組内容：※長野県 J A 上伊那

「宮田学校給食を育てる会」（宮田村）

学校給食の食材として地元産農産物利用をすすめるため、地元農家が協力して農産物を提供。農家の畑で提供作物の栽培体験も行う活動も並行して実施。

地元の採れたての農産物のおいしさを知ることはもちろん、作り手への感謝、地域農業への関心、ひいては郷土愛も育む。

年間の作付け計画はもちろん、毎月・毎日の提供できる品目・量の把握と出荷分担、集荷・配達など、さまざまハードルをクリアするために農家、学校、栄養士など各方面の連携を図っている。



○関連する目標：

- ①食育に関心を持っている国民の割合
- ②学校給食における地場産物を使用する割合(金額ベース)を現状値（令和元年度）から維持・向上した都道府県の割合
- ③学校給食における国産食材を使用する割合(金額ベース)を現状値（令和元年度）から維持・向上した都道府県の割合
- ④食育の推進に関わるボランティア団体等において活動している国民の数
- ⑤農林漁業体験を経験した国民（世帯）の割合
- ⑥栄養教諭による地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数
- ⑦環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ国民の割合
- ⑧産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ国民の割合
- ⑨食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する国民の割合
- ⑩食品ロス削減のために何らかの行動をしている国民の割合

取組名：伝統食継承のための料理教室

○取組内容：※長野県JA信州うえだ女性部（上田市）日本の食文化継承を目指した、地域の伝統食作り活動。地域の若い母親と子どもを対象にした「親子料理教室」をはじめ、大人を対象にしたものまで、幅広い層に向けて開催。作り方だけでなく、伝統食にまつわる由来（時期や材料、形などの持つ意味等）も、ともに学ぶ。



（参加者の感想）

「昔は祖母が作ってくれていたが、作り方を聞いておかなかった。ここで学べてうれしい」

「由来を知らずにいたが、地域の伝統を子どもと分かち合えてよかった」



○関連する目標：

- ①食育に関心を持っている国民の割合
- ⑬食育の推進に関わるボランティア団体等において活動している国民の数
- ⑱産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ国民の割合
- ⑳地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている国民の割合
- ㉒郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている国民の割合

取組名：「フードドライブ」活動

○取組内容：※長野県内 各J A女性組織
『地域の笑顔は食事から』
『安心して毎日「食べること」ができなければ、食育もできない』として、
女性部とJ Aが協力して、フードドライブ活動に力を入れている。
生活困窮家庭をはじめ子ども食堂などに、必要とされる食材を届ける。



○関連する目標：

- ①食育に関心を持っている国民の割合
- ⑯食育の推進に関わるボランティア団体等において活動している国民の数
- ⑳食品ロス削減のために何らかの行動をしている国民の割合

【現在の取組について】

○課題：

- ・ コロナ禍で、それ以前に継続していた活動を休止せざるを得なかった。そのため、ノウハウの継承や培った関係性が薄れてしまった部分がある。
- ・ 地域で行う食育活動の継承者育成

○重視していること：

心と体をつくる「食」の大切さ、そして食を育むことはもちろん日本の風景・文化も育む「自国の農業」の大切さを、子どもたちから知ってもらうための教育活動が重要。この原点は変わらないが、現在の新たな課題（食文化・アレルギー・環境問題・デジタル化・健康寿命延伸等）に沿って、伝える内容・方法を変えていかなければならない。

そして、食育活動は地域全体で取り組んでいくことで長く・広くつながっていく。

○今後の方向性：

生産者やJAはもちろん、地域の様々な団体・機関と連携して活動を行っていく。